令和６年度（２０２４年度）第１回

新千歳空港の２４時間運用を巡る千歳市地域協議会

議　　事　　録

日　時：２０２４年8月３１日（土）午前１０時開会
場　所：千　歳　市　総　合　福　祉　セ　ン　タ　ー

令和６年度（２０２４年度）第１回　新千歳空港の２４時間運用を巡る千歳市地域協議会

・日　時　２０２４年８月３１日（土）１０：００～１１：００

・場　所　千歳市総合福祉センター　４０２号室

・議　題

（１）新千歳空港における最近の動向について

（２）令和５年度航空機騒音測定結果等について

（３）住宅防音対策の進捗状況等について

（４）地域振興対策の進捗状況等について

（５）新千歳空港周辺地域振興基金について

（６）その他

◎地域委員　出席者（２５名）

◎北海道（６名）

◎千歳市（６名）

◎公益財団法人　新千歳空港周辺環境整備財団（４名）

◎オブザーバー（２名）

１．開　　会

●千歳市（空港政策課長）　皆さん、おはようございます。

定刻となりましたので、始めさせていただきたいと思います。

それでは、ただいまより、令和６年度第１回、通算５８回目となります新千歳空港の２４時間運用を巡る千歳市地域協議会を開会いたします。

本日の協議会は、お手元に配付しております次第に沿って進めてまいります。

２．挨　　拶

●千歳市（空港政策課長）　初めに、北海道総合政策部交通企画監よりご挨拶を申し上げます。

●北海道（交通企画監）　皆様、おはようございます。

本日は、雨の後ということで、足元の悪い中、そして、お忙しい中、本協議会にお集まりいただきまして、本当にありがとうございます。日頃から、道の航空行政に非常にご理解とご協力をいただいていることに関しましても、改めてお礼を申し上げます。

新千歳空港の利用につきましては、昨年度は２，００３万人ということで、開港以来、２，０００万人を初めて超える状況であり、非常に好調に推移しているところでございます。また、物流の面につきましては、４月にクロネコヤマトさんの航空便が供用開始になりまして、非常に明るい話題が続いております。一方で、海外の需要につきましては、コロナ以降、まだ完全な回復とまでは戻っておりませんで、７割強で推移しているところでございます。

空港に関しましては、空港人材、よくグランドハンドリングと言われる部分の人材が不足している部分や、最近、燃油問題、ジェット燃料の問題が新聞などに報道されたところでございまして、こうした課題への対応も今後検討していかなければならないということで作業を進めております。いずれにしましても、海外の航空需要をしっかり取り込んでいけるように頑張っていきたいと思っております。

新千歳空港につきましては、道内のさらなる活性化に向けて非常に重要な役割を担っている空港でございます。道としても、新規航空路線の誘致も含めまして、今後もしっかりと取り組んでいきたい、このように考えております。

また、新千歳空港の２４時間運用の推進につきましては、本当に今日お集まりの皆様のご理解とご協力なくしては成り立ちません。ぜひ、皆様とお約束しました住宅の防音対策、地域振興対策につきましては、本日一緒に出席しております千歳市さん、それから、ＨＡＰさん、財団の皆さんと一緒になってしっかり取り組んでまいりたいと考えてございますので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

本日は、忌憚のないご意見を頂戴して成果のあるものにしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

●千歳市（空港政策課長）　ありがとうございました。

続きまして、千歳市副市長よりご挨拶を申し上げます。

●千歳市（副市長）　皆さん、おはようございます。

本日は、本当に天候の悪い中、令和６年度第１回になります新千歳空港の２４時間運用を巡る千歳市地域協議会にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方には、日頃から新千歳空港の２４時間運用に関しまして、格別なご理解等をいただいておりますことに、この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。

今、北海道の交通企画監からもお話がありましたとおり、昨年、新型コロナウイルス感染症が５類に移行して以降、航空需要も回復傾向にあって、国内線も今過去最多ということでお話をいただきました。おかげさまで、新千歳空港のほうも活況が戻ってきておりますし、それに関連して、市内のいろいろな飲食、宿泊施設、そういったところにも元気が今戻ってきて大変うれしく感じているところであります。

また、お話のありましたとおり、ヤマトホールディングスの貨物便のほうも４月から就航したということで、今、北海道については２０２４年問題で、例えば、農作物とかの物流問題が非常に課題となっている中で、こういった航空貨物便をトラックの輸送に代替として、１便当たり大型トラック６台分ぐらいの量になるらしいのですけれども、そういったものが就航されたということで、今後そういったことも北海道の物流体系の一助になるものと大変期待をしているところであります。

そういった中で課題としてありましたのが、先ほどの人手不足、また、航空燃料の不足、こういったものに関しまして、現在、知事も国のほうに、特に航空機燃料の不足の部分については要望を上げさせていただく、また、航空機、エアライン関係、また、空港の人材不足の部分については、北海道、それから、北海道エアポート様、あるいは、エアライン関係機関と連携を取りながら、今しっかりとそういった課題解決に取り組みながら今後の国際線の増便、復便を進めていきたい、このように考えているところであります。

また、加えまして、現在、本市につきましては、皆さん、ご承知の国家的なプロジェクト、ラピダスの半導体製造工場の建設が進んでおりまして、現在、約５０％を超える進捗率ということで、今後、来春２０２５年の試作ラインの稼働、２０２７年の量産体制に向けまして、今、スピード感を持って取り組んでいるところであります。こういったものが進んでいきますと、今後、新千歳空港周辺には多くの産業集積とか企業立地が進んでいく中で、新千歳空港の果たす役割というものはますます大きくなっていくものと期待をしているところであります。このことから、皆様方には引き続き、新千歳空港の安定運用に向けまして、深いご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本日、この後は住宅防音工事、あるいは地域振興対策の進捗状況について説明がありますので、市といたしましては、しっかり住宅防音工事などを進めながら、２４時間の安定運用、こういったものを進めていきたいというふうに考えております。

この機会に、皆様方からご忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げまして、

開会に当たってのご挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

●千歳市（空港政策課長）　ありがとうございました。

３．議　　事

●千歳市（空港政策課長）　それでは、議事に入りたいと思います。

議題の（１）「新千歳空港における最近の動向について」、北海道及び北海道エアポートから説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　新千歳空港における最近の動向及び近況につきまして、資料１－１及び資料１－２によりご説明をいたしたいと思います。

資料の１－１をご覧ください。ページ数では１ページ目となります。

最初に、「１　深夜・早朝時間帯における定期便の状況について」でございます。

資料では、令和６年８月までの運航実績について整理をしております。

今年度につきましては、今月よりヤマト運輸の深夜貨物便の３便が運航を開始いたしましたことによりまして、表のとおり、昨年度より４便多い、１日最大１０便を見込んでおります。

次に、資料の下段になりますが、「２　深夜・早朝時間帯における国際臨時・チャーター便の状況」でございます。

新型コロナウイルス感染症の拡大による影響によりまして、令和２年度から４年度までは深夜・早朝時間帯の運行実績はございませんでしたが、昨年度におきましては、韓国が旅客便の３便､オーストラリアが貨物便の１便､合計４便の運航実績があったところです。

道といたしましては、航空路線の需要を高め、これまで以上に深夜・早朝時間帯の発着枠が有効に活用されるよう、今後も引き続き取り組んでまいりたいと考えております。

新千歳空港における最近の動向に関する道からの説明は、以上になります。

●北海道エアポート株式会社（地域共生担当次長）　続きまして、「２０２４年新千歳空港の近況」につきましてご説明を申し上げます。

着座にて失礼させていただきます。

まず、資料の１－２の２ページでございます。

上段のほう、「２０２４年新千歳空港発着便数」につきましてでございます。

新千歳空港の国内線の便数は、幹線を中心にコロナ前、２０１９年の水準へほぼ回復したと言えます。特に雪まつりなどのビッグイベントが通常開催となりまして、北海道への観光需要の回復に伴いまして、航空会社は各路線の便数をコロナ前の水準にほぼ戻したと言えます。

また、国際線は韓国、台湾等を中心に便数が回復しまして、前年の約１．５倍で推移しておりますが、コロナ前と比較しまして、中国本土路線が北京、上海、深圳の３路線の就航にとどまっておりまして、回復率は下の表のとおり、５割から７割程度で推移しており

ます。

下段に移ります。

同じく、「２０２４年新千歳空港旅客輸送実績」でございます。

コロナの５類移行後、新千歳空港の国内線はビジネス層におきまして、会議等のウェブによる遠隔化が定着したことによりまして出張等の需要が低下いたしまして、それをコロナ禍で抑制されていました帰省等の生活需要と観光需要が補塡し、コロナ前対比９６％前後で推移いたしました。

２０２４年４月からは生活需要、観光需要が一巡した感がございまして、ビジネス需要減をカバーできずコロナ前対比９２％程度と、年度スタートとしては若干厳しい状況ではございました。しかしながら、最近の数値を確認いたしますと、６月はご覧のとおり、やや若干回復しておりまして、７月もほぼ回復しておりますので、この辺のところは憂慮してはございません。

一方、国際線は、韓国路線が好調を維持しておりますが、空港地上支援業務の人手不足に加えて､先ほどもございましたとおり､航空燃料の供給確保の新たな問題によりまして、新規就航やチャーター便就航に支障を来すケースが顕在化しております。

国（政府）は、６月より官民の協議を開始いたしまして、７月、先月、燃油の供給安定に向けた行動計画を示したところで、徐々に回復していくものと考えております。

北海道エアポートからは、以上でございます。

●千歳市（空港政策課長）　ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等がございましたら、挙手の上、ご発言をお願いいたします。

特にありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長）　ないようですので、議題の（１）「新千歳空港における最近の動向について」は、報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題の（２）「令和５年度航空機騒音測定結果等について」、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　それでは、令和５年度の民航機の騒音測定結果等につきまして、資料の２－１から２－３によりご説明をいたします。

初めに、資料の３ページ目、資料の２－１をご覧ください。

千歳市内におけます航空機騒音の測定局でございますが、北海道が設置しました東郊局など９局と､千歳市が設置いたしました青葉丘局などの８局､合計１７局がございまして、これらの測定局で騒音値を測定しているところでございます。

表の右側には、年間Ｌｄｅｎ値というものと民航Ｌｄｅｎ値の２種類の数値を記載してございます。

年間Ｌｄｅｎ値とは、千歳飛行場を離着陸する自衛隊機を含みます全ての航空機騒音を集計した結果となっています。

また、民航Ｌｄｅｎ値ですが、自衛隊機の離着陸のなかった日を民航機のみの航空機騒音を測定した日とみなして集計した結果でございまして、本日は、この民航Ｌｄｅｎ値についてご報告を申し上げます。

資料の太枠で囲った部分が令和４年度と令和５年度の民航Ｌｄｅｎ値の測定結果となってございます。

年度によって自衛隊機の飛行日を除いた後の集計対象日数が異なることや、気象条件などによって算出値が変化する場合がございますので単純には比較できませんが、令和５年度におきましては、東郊局、富丘局、稲穂局など８局において、昨年度の値を上回る結果となった一方で、旭ヶ丘局は昨年度を下回る結果となってございます。

なお、全ての測定局で対策の目安となる環境基準を下回っている結果となったことを申し添えます。

続きまして、資料の４ページになりますが、資料の２－２をご覧ください。

「令和５年度遅延便の深夜・早朝時間帯使用状況について」ご説明します。

この資料での遅延便とは、地域の皆様と合意をいただいております深夜・早朝３０枠以外の便で、何らかの理由で出発ないし到着が予定より遅れたことにより、結果として、深夜・早朝時間帯を使用することとなった便のことでございます。

まず、一番上の「１の航空会社別便数について」でございますが、令和５年度の遅延便の合計は７１７便となったところです。航空会社別では、ＡＩＲＤＯさんが２２６便と一番多く、次に、ＡＮＡさんが２１７便となっておりまして、それぞれ全体の３２％、３０％を占める状況となっています。

次に、「２の遅延理由別便数について」でございますが、令和５年度におけます遅延便は、令和４年度と同様に天候による遅れが３１８便と最も多くなっておりまして、全体の４４％を占める結果となりました。

また、次に多いのが、機材の不具合や玉突きなどの機材繰りによる遅延でございまして、２２０便、３１％となってございます。

天候による遅延につきましては、月ごとの遅延便数を表の下にグラフとして記載しております。

紫色で表示されている令和５年度のデータをご覧いただきますと、８月と１月、２月に多くなっていることが分かると思います。８月は、雷雨や台風による悪天候であるとか、夏休み時の空港施設の混雑の影響による遅延、１月は、羽田空港の事故の影響による遅延に加えまして、新千歳空港の大雪に伴う遅延が多かったことによるものとなっているところです。

続いて、３番目の「時間帯別便数について」でございますけれども、例年２２時から２２時１９分の２０分以内の遅延が大変多くなっています。令和５年度もその時間帯の遅延便が３２２便と、全体の約４５％を占めているところです。

また、２２時台の遅延は、左から３列の合計になりますが、合計で５９３便ありまして、

全体の約８３％を占めている状況になってございます。

続きまして、資料の５ページの資料２－３「千歳市側と苫小牧市側の着陸の状況について」をご覧ください。

この資料でございますが、千歳側にある旭ヶ丘局と苫小牧市側にあります植苗局それぞれの測定局の計測値から着陸方向を判断しまして、７時から２１時５９分までの日中と、２２時から翌朝の６時５９分までの深夜・早朝の時間帯に分けてカウントしたものでございます。

新千歳空港を離陸する航空機につきましては、離陸後に東京方面など、目的地に向かって南下していく便が多く、千歳側から離陸する場合、離陸後は南向きに旋回して苫小牧側に飛んでいくということになります。

こうしたことから、苫小牧側の測定局でも千歳側からの離陸の騒音を計測してしまうケースというのがございまして、計測値からは正確な離陸数を把握することが大変難しいということになっておりまして､資料では､これまでと同様に着陸数のみを示しております。

上の表をご覧いただきたいと思いますが、令和５年度の着陸数につきましては、全体で千歳側が４万２，２９１回、苫小牧側が１万８，７６７回でございます。比率では、千歳側が約６９％、苫小牧側が約３１％というふうになっております。

時間帯に見た場合､７時から２１時５９分までの日中につきましては､千歳側が４万１，１３５回、苫小牧側が１万８，３１８回、また、深夜・早朝時間帯の２２時から翌朝６時５９分までは、千歳側が１，１５６回、苫小牧側が４４９回と、いずれも着陸の比率は、千歳側が約７０％、苫小牧側が約３０％というふうになっております。

離陸につきましては、先ほども説明をしましたとおり、計測値からの正確な判断というのは難しいのでなかなかできないということなのですが、着陸数から推測しますと、離陸は､苫小牧側が約４万２，０００回､千歳側が１万９，０００回と考えられるところです。

この計測値につきましては、あくまでも航空機の音でカウントしておりますので、実際の数字とは乖離が発生することをご承知おき願いたいと思います。

説明は以上になります。

●千歳市（空港政策課長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長）　特にご発言がないので、議題（２）「令和５年度航空機騒音測定結果等について」は報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題の（３）「住宅防音対策の進捗状況等について」北海道からご説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　それでは、資料の６ページ、資料３をご説明いたします。

１の令和５年度の実績等についてでございますが、千歳市分は表の上段の太枠で囲われた部分になりますが、こちらをご覧ください。

表の中の数字は、高齢者優先枠を含めた数値となっておりますが、まず、意向調査で回答があったのが、一般住宅で１，７６０件、１，８０３世帯、集合住宅で１４２件、９１５世帯、合計で１，９０２件、２，７１８世帯となっております。

工事の実績につきましては、令和４年度までの間に、一般住宅で６６８件、６９０世帯、集合住宅で４９件、３５４世帯、合計で７１７件、１，０４４世帯の工事が行われてきましむた。

また、令和５年度は、一般住宅で９４件、９８世帯、集合住宅で１１件、９０世帯、合計で１０５件、１８８世帯のうち、令和４年度からの繰越分でございますが、合計で３０件、３８世帯の工事が行われてきたところでございます。

昨年度までの合計につきましては、数値は表に記載してございませんが、令和４年度までの実績と令和５年度の実績を足しますと、一般住宅で７６２件、７８８世帯、集合住宅は６０件、４４０世帯、合計で８２２件、１，２３２世帯の工事が行われまして、実施率は、件数で４３．２％、世帯数で４５．３％となってございます。

また、令和６年度の計画でございますが、一般住宅で１１２件、１１６世帯、集合住宅で１０件、８６世帯、合計で１２２件、２０２世帯の工事が行われる予定となってございまして、現在８６件、１５２世帯が着工となっている状況になります。

このことから、今年度末までには、一般住宅で８７４件、９０４世帯、集合住宅で７０件、５３０世帯、合計では９４４件、１，４３４世帯となる見込みでございまして、実施率は、件数で４９．６％、世帯数で５２．８％の見込みとなっております。

苫小牧市も合わせました令和５年度の工事実績及び今年度末までの工事見込みについてでございますが、表の下段をご覧ください。

表の中の工事実績Ｒ５というところの欄の一番下に記載しておりますとおり、令和５年度には、千歳市と苫小牧市を合わせまして１１９件、２０３世帯の工事を実施したところでございます。表の右下に記載のとおり、令和６年度末までには１，１０２件、１，６２５世帯の工事が完了する予定となってございますことから、実施率は、件数で５０．２％、世帯数で５２．５％となると見込んでおります。

次に、２の令和６年度の実施計画についてでございます。

今年度の予算分といたしまして、一般住宅が８８件、９０世帯、集合住宅が８件、７０世帯、合計で９６件、１６０世帯を計画件数としてございます。

また、昨年度の繰越分といたしまして、一般住宅が８件、８世帯、集合住宅が２件、１６世帯、合計で１０件、２４世帯を計画しておりまして、さらに高齢者優先枠の１６件、１８世帯を加えまして、合計欄にありますとおり、全体では１２２件、２０２世帯を現時点における実施計画数としてございます。

次の７ページをご覧ください。

３の高齢者優先枠の令和５年度の実績等についてでございます。

令和５年度は高齢者優先枠によりまして、一般住宅で１６件、２０世帯の工事を実施したところです。

令和６年度の計画数は表のとおり、１６件、１８世帯となってございまして、合計しまして、６３件、７４世帯の工事をもちまして、高齢者優先枠の工事は全て終了する予定となってございます。

次に、４の防衛省官舎、寿官舎に係る住宅防音工事の実施についてでございます。

令和２年度に防衛省の寿官舎の管理者であります東千歳駐屯地からの要望を受けまして、個別協議を経て、この地域協議会におきまして、令和４年度から居室に冷房装置を設置する工事を実施することとなりました。令和７年度までの間、各年度の工事件数を平準化するということで、一般住宅の防音工事の進捗に影響を及ぼさないように実施していく予定としておりまして、今年度も４０件を進めていくこととしております。

次に、５の令和６年度の現地調査についてでございます。こちらにつきましては、高齢者優先枠を含めた数値となります。

この現地調査は、令和７年度工事予定のものでございます。令和５年度までに一般住宅１６件、集合住宅１件の合計１７件を実施済みというふうになっておりまして、今年度は４月に一般住宅２７件、７月に一般住宅４２件を実施いたします。来週になりますが、９月９日から一般住宅３２件、集合住宅７件の合計３９件を実施することとしております。

これらを踏まえまして、千歳市におきましては、現時点で１２５件の計画となっておりますが、今年度の工事の進捗を勘案しながら、適宜、追加調査の実施も検討していく予定となってございます。

次に、６の集会施設に係る防音工事の実施についてでございます。

町内会館に関わります防音工事につきましては、令和４年８月の地域協議会でご説明をいたしましたとおり、表に記載のとおり、１年に１か所ずつ計画的に工事を進めているところです。今年度は、寿町内会館が対象となっておりまして、現在、各種調整や準備を進めているところとなっております。

ここまで工事の進捗状況についてご説明をしてまいりましたが、住宅防音工事の工事単価につきましては、防衛局の工事単価に合わせて毎年度見直しをしております。

また、本年２月の地域協議会におきまして、ご質問がありましたけれども、助成対象となる工事対象経費につきましても、急激な資材費高騰などを考慮いたしまして、防衛局の基準に準拠する形で上限額を緩和することとしまして、今年度の工事から適用していることをご報告申し上げます。

それでは、資料の８ページをご覧ください。

住宅防音工事の流れにつきまして、改めて簡単にご説明をしたいと思います。

公益財団法人新千歳空港周辺環境整備財団では、皆様から提出いただきました意向調査票の記載に基づきまして、評価基準より工事の順位付けを行います。工事予定時期の前年

度に対象者に対して候補住宅通知書を送付し、順次、現地調査を実施することとなっております。現地調査が終了した後、その年度内に皆様で設計事業者と契約していただきまして、契約が終わった後、その翌年度から工事を実施するという流れになっております。

なお、工事予定時期など、詳しくは財団までお問合せいただきますよう、よろしくお願いいたします。

資料の中段ですが、財団の組織図を参考までに記載しております。組織体制など、昨年度からの変更は特段ありませんので、ここでの細かい説明は省略させていただきます。

住宅防音対策の進捗状況等に係る説明は、以上のとおりです。

●千歳市（空港政策課長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございましたらお願いいたします。

特にないでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長）　ないようですので、議題（３）「住宅防音対策の進捗状況等について」は報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題の（４）「地域振興対策の進捗状況等について」、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　それでは、地域振興対策の進捗状況につきまして、資料の１０ページの資料４によりましてご説明をいたします。

まず初めに、１の「事業の概要等について」でございます。

千歳市の地域振興対策につきましては、毎年２億６，０００万円を１０年間、総額２６億円の基金を創設しまして、造成した基金を活用いたしまして、住宅の防音機能の維持、拡充に資する防音機能維持・拡充等対策事業のほか、防音機能確保対策事業、そして、生活環境整備等事業を実施することとしております。現在、千歳市と財団が主体となって事業を進めているところです。

２の「事業の執行状況等について」でございます。

令和５年度につきましては、２億６，０００万円を造成し、約８，１００万円を執行したところです。その差引きの約１億７，９００万円を繰り越してございます。

今年度につきましては、昨年度と同様、新たに２億６，０００万円を造成いたしまして、７，７００万円を執行する予定でございますので、約１億８，３００万円を繰り越す見込みとなっております。現時点では、令和６年度末におけます繰越額の合計は１３億８，４２８万９９０円となる状況でございます。

次に、３の「事業の進捗状況等について」でございます。

防音機能維持・拡充等対策事業や防音機能確保対策事業につきましては、先ほどの資料３で説明いたしました住宅防音工事とセットで実施することとしておりまして、令和５年度では８１件を実施いたしまして、執行額は８，０９８万７，７５１円となっております。また、令和６年度は、現時点で７７件の事業を実施する見込みとなっておりまして、事業

費は７，７００万円を見込んでいるところです。

続いて、４地域で実施する生活環境整備等事業でございますが、根志越エアカーゴ対策協議会の根志越温泉施設改修事業は、平成２９年１１月に完成いたしまして、６，０００万円を支出しております。

次に、中央長都の中央釜加線道路整備事業でございますが、令和３年１１月に完成いたしまして、約４，２００万円を支出しております。

次に、駒里連合会の駒里町内会館改修等事業につきましては、平成３０年８月に完成いたしまして、６，０００万円を支出してございます。

次に、祝梅町内会の祝梅第一道路整備事業でございますが、平成２８年１２月に完成いたしまして、約４，０００万円を支出しております。

地域振興対策の進捗状況に係る説明は、以上のとおりでございます。

●千歳市（空港政策課長）　ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等がございましたらお願いします。

特にないでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長）　特になければ、議題（４）「地域振興対策の進捗状況等について」は報告済みとさせていただきます。

続きまして、議題（５）「新千歳空港周辺地域振興基金について」、北海道から説明いたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　新千歳空港周辺地域振興基金につきまして、資料の１０ページ、資料５によりご説明をいたします。

まずは、１の「基金の概要について」でございますが、造成目標額３０億円に対しまして、令和５年度末の造成済み額は１９億５，９７０万円でございます。

平成２７年の３０枠合意を契機といたしまして、道内で事業活動をされている企業を中心に基金造成への協力要請を行ってきた結果、現在までに１７社から総額１億１，７５０万円の寄附をいただいております。

ご寄附いただきました主な企業は、表にあるとおりでございます。

昨年度までは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響によりまして、企業などに対する個別の協力要請を中断しておりました。ただ、コロナも５類になったということもありまして、今年の４月に、経済界にご協力をいただきまして、会員企業に対して、基金の取組について周知をいただいたところです。

また、それと並行しまして、我々も、主に空港関連の企業などを訪問し、寄附の要請活動を再開したところでございます。ただ、残念ながら、現時点では、まだ実際の寄附協力をいただくまでには至ってはいませんが、今後も引き続き、企業などへの働きかけを継続的に進めてまいる考えでございます。

基金の造成目標額の未達成分に関しましては、基金運用益見合い分といたしまして、道

から財団に１．５％金利見合いの約１，５００万円を補助しております。基金運用益と合せて、財団から町内会等に交付されているところです。

令和６年度につきましても、昨年度と同額程度が確保されまして、既に配分されていることを申し添えます。

基金に係る説明は以上となります。

●千歳市（空港政策課長）　ただいまの説明につきまして、ご意見やご質問等がございましたらお願いいたします。

特にありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長）　ないようですので、議題（５）「新千歳空港周辺地域振興基金について」は報告済みとさせていただきます。

次に、議題（６）「その他について」、北海道から連絡事項がありますので、説明をお願いいたします。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　資料の１１ページの資料６をご覧ください。

ヤマト運輸の貨物便につきましてご報告いたします。

このことにつきましては、今年の２月に開催されました地域協議会におきまして、夜間運航があるということにつきましてはご報告していると思いますが、今回は、具体的な運行計画についてご説明をいたしたいと思います。

４月から運行しておりますヤマト運輸の新千歳空港関係便につきましては、これまで４便体制でございましたが、８月１日より、資料に記載の６便体制となったところです。

そのうち、太枠で囲んでおります三つ、成田２２時２０分発、新千歳空港０時５分着、羽田４時３０分発、新千歳空港６時１０分着、新千歳空港１時２０分発、羽田３時着の合計３便が深夜・早朝時間帯を利用する便となっております。

報告は以上です。

●千歳市（空港政策課長）　ただいまの説明につきまして、ご質問等がございましたらお願いいたします。

（「なし」と発言する者あり）

●千歳市（空港政策課長）　ないようですので、それでは、最後に、これまでの議題以外でも結構ですから、皆様から、何かご質問やご意見等がございましたらお願いいたします。

Ａ委員。

●Ａ委員　今、いろいろと説明していただいて、特に本体工事の進捗率ということで、やっと５０％に来たなということで、工事が始まって、コロナがあって、その後、急激な物価高騰で、またこれで進捗率が落ちるのかなというふうに思ってたんですけれども、皆さんのご協力のおかげ、何とかここまで来たということで、私たちも会員の人から本当にいつ来るんだということで聞かれても、やっぱり５０％切ってると、「今は４０％ぐらいですよ」と言ってもなかなか会員の皆様にはご理解いただけないんですよね。

それと、今、これで残りが５０％を切ったということで、何とか我々もそういうことで会員の人に回答できるかなというふうには思っています。引き続き、なるべく進捗が進むように、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

先ほど課長さんのほうから説明のあった本体工事の限度額の件ですけれども、防衛の基準に沿って、道のほうも本体工事の限度額は上がっているということで、工事には大きな支障はなかったのかなというふうに思っています。しかしながら、今やってる補完工事、１件当たり１００万円ということで限度額が決まってるんですけれども、今、物価が上がって、会員のほうからもかなり目減りしてるんじゃないかということで、そういう話がございます。本体工事の限度額も工事当初から６年度にかけて調べてみますと、大体１．５倍ぐらいの工事の単価が上がってるんですね。補完工事だけに焦点を当ててみますと、内窓については大体１７０％ぐらい上がってるんですね。それと、エアコンですか、これについては、大体１２０％ぐらいということで、それぞれ物によって高騰の差はあると思うんですけれども、いずれにしても、私たちは大体５０％ぐらいは物価が上がってその分目減りしてるんじゃないかなということの意見をいただきましたので、その辺の補完工事の現状について、ご説明いただければと思います。

●北海道（新千歳空港周辺対策担当課長）　ご意見、ご質問をありがとうございました。

この件につきましては、一部の地域から声があるということは承知しておりまして、まず、補完工事でございますけれども、寝室対策といたしまして、内窓や冷房機器を設置するということが目的の事業でございまして、先ほど委員からもお話がありましたが、これにつきましては、限度額を定めておりませんので、例えば、物価高騰をしていますといったとしてもそこは対応しているということになります。ただ、例えば内窓が既に寝室に設置されている等の場合には、住民が希望すれば、代替工事として、室内環境の確保が期待される屋根、天井、壁などの工事に対しまして、工事費１００万円を上限として支援が受けられるという特例的な扱いを選択することもできるというふうな制度になっているところです。

こうしたことを踏まえますと、そもそも天井や壁などの防音工事を実施するという、新規の住宅防音工事とは異なりまして、補完工事におきましては、あくまでも内窓、冷房機器を設置するというのが基本でございまして、その代替工事を選択するという選択肢は、内窓と冷房機器の設置が不要な方にも一定程度の補完工事の恩恵を受けられるように工事の一部を支援するオプションを用意したというような位置付けになっています。

したがって、本制度の趣旨を踏まえますと、代替工事に対する１００万円というのは、物価高騰などの要因がありましても、本来のメニューである内窓、冷房機器の設置に要する金額と比較しまして、不公平な上限設定ではないというふうに考えております。

なお、参考までにですけれども、補完工事におけます内窓、冷房機器の設置にどれだけかかっているかというようなデータがあります。一番物価高騰の影響を受けていると思われる令和６年度の実績（見込み）を見ますと、１世帯当たり内窓、冷房機器の設置は６０

万円を下回っているというような状況にありまして､代替工事ということを踏まえますと、適正な設定ではないかなというふうに考えております。ご理解いただきたいと思います。

●Ａ委員　ありがとうございます。

補完工事の趣旨から考えれば本体工事とは違いますので、この物価に対するスライドというのがありませんのでやむを得ないとは思うんですけれども、この先も、まだ物価も恐らく上がっていくと思うんですけれども、まだ防音工事をやってない人にとっては、これはますます目減りするのかなという、そういう気持ちを持つというのは、これはもうやむを得ないと思うんですよね。そういうことで、なるべく早く、こちらの工事のほうの進捗できればなというふうに思います。ありがとうございます。

●千歳市（空港政策課長）　ほかに何かご意見等がございましたらお願いいたします。

ありませんでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

４．閉　　会

●千歳市（空港政策課長）　ほかにないようですので、それでは、以上をもちまして、令和６年度第１回千歳市地域協議会を終了させていただきます。

本日は、お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございました。

以　　上